

細胞膜と細胞内膜における脂質制御とその生理機能 (S54)

このシンポジウムは大会3日目(3月29日)の13:20~15:20 2F Groomにて行われました。以下にその概略を記載します。

講演は以下の6名にて記載の順に行いました。

岡村康司先生(大阪大学), 吉岡和晃先生(金沢大学), 野田健司先生(大阪大学), 小林俊秀先生(理化学研究所), 斎郷平先生(九州大学), Eamonn Dickson先生(ワシントン大学)。

最初の岡村先生にはイントロもかねて, 形質膜や細胞内膜の脂質に関する説明を最新の動向も含め, 紹介していただいた。その後, ご自身の電位依存性ホスホイノシチド脱リン酸化酵素 VSP の活性化過程における中間状態の発見について講演をいただいた。次の吉岡和晃先生には PI3K による脂質のゴルジ体からの輸送と血管新生における役割について, ダイナミックな輸送過程の画像とともに講演をいただいた。細胞生物学を専門とされている, 野田健司先生にはイノシトール脂質による Autophagy の形成, その後の機能として, 細胞死やウイルス感染時における Autophagy の役割についてご講演をいただいた。小林俊秀先生には細胞分裂における脂質の動き, 特に PIP_2 クラスターの役割についてご講演をいただいた。斎郷平先生には TRPC3/6/7 チャネルにおける PIP_2 や DAG の役割について, FRET と電流の同時測定から得られる知見について, ご講演をいただいた。最後の Eamonn Dickson 先生には PIP_2 における $PI4P$ のプールとしての役割として, $PI4P$ の細胞内膜から形質膜への素早い充填機構の存在についてご講演いただいた。6人という発表者であったため, 時間的にはタイトであったが, その分, 緊張感を持って, 集中して行えたことは幸いでありました。特に細胞生物に力点を置いて研究されている野田先生や小林先生のご講演を聞いたことは, 多くの生理学者には興味深かったのではないかと感じた次第であります。

会場に来ていただいた多数の皆様には, この場をお借りしてお礼申し上げます。

オーガナイザー: 岡村 康司(大阪大学院・医・総合生理)
森 誠之(京都大学大学院工学研究科)

